

幾代会 2月（平成31年）の観察会

日時 2月3日（晴れ） 穏やかな天気 10時10分矢川駅集合
新人紹介後、行程を説明10時15分矢川緑地へ出発

参加者 10名（木村、樋口、羽深、岡、須崎、中部 石川（新規）、越前、川杉、小沢）

観察地域 矢川駅～矢川緑地～ママ下湧水～矢川おんだし～くにたち郷土文化館（トイレ）
ハケ下の道～かつや（昼食）～城山公園（トイレ）～府中用水沿い～谷保天満宮（常盤の清水・谷保
天満宮梅林）～谷保駅

観察地の特徴

湧水地の植物をめぐりながら、立川崖線や青柳崖線に沿って植生を観察する。

矢川緑地 立川市の領域 武蔵野の雑木林を残す湧水地と植物。近隣に小学校（国立6小）
があり、子供の文字で樹木の名札がつけられていた。矢川湧水で湿地になっている。このところ雨が
なく湧水量が少ない。この近辺だけが流れ有。

ケヤキの解説

櫟（ケヤキ）について改めて考えてみる。（越前解説）

枝先にある葉の部分5～6枚と果実をつけたまま風で飛ばされ繁殖する。

特に光合成する葉は大きく、果実とともに飛ぶ葉（着果短枝）は小さい。

ママ下湧水

ママ下湧水は湧水量がほとんど変わらない様子で流れ出ている。

こうした場所は植生に大きな役割があるに違いない。水に変化がほとんどないところでは植生の変
化が極めて少ないだろう。気温の変化や周りの開発の変化に左右されるものと考えられる。変化の様
子を知りたいところである。

飲料水にするのだとペットボトルに汲んでいた吾人がいた。生で飲めると。

府中用水

府中用水は国立市西部の多摩川から取り入れている。崖線下の田んぼや畑の用水
として使われ、この川で水面近くに十字型対生の植物は何か。これは
オオカワジシャ（オオバコ科＜旧ゴマノハグサ科＞クワガタソウ属）とのこと
（臼井）特定外来生物に指定され栽培禁止、持ち出し禁止の植物だそうだ。在来種
でカワジシャというのがある。

崖線

国立市は2つの崖線が東西に走っている。

矢川緑地の北側を走る立川崖線は谷保天満宮を通り国分寺崖線に向かっている。もう一つは府中用水取
り入れ口を通る青柳崖線が走りママ下湧水、くにたち郷土文化館の南そして谷保天満宮を通っている。

崖線沿いはシラカシやアラカシなどの常緑樹に覆われ、崖線の崩れを防いでいる。

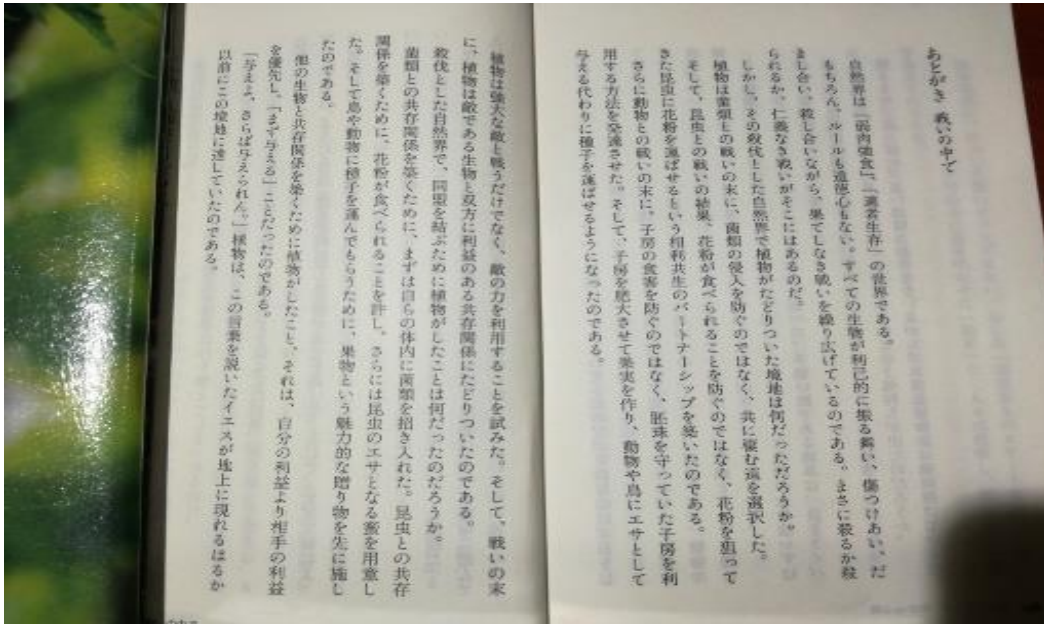
谷保天満宮

ここは立川崖線と青柳崖線が一番接近した場所のようである。多摩川の蛇行が大きく北側に流れていたの
かもしれない。

常盤の清水 谷保天満宮北側（甲州街道すぐ南）甲羅干しの亀 錦鯉 白いすっぽん

天満宮梅林 古木の多い梅林である。名前が分からない。これもまた仕方なしか。

植物界について（下記の文章を読み上げた 越前）



稲垣栄洋は 上記の写真のように最後の4行が大切である。他の生物と共存関係を築くために植物がしたこと、それは自分の利益より相手の利益を優先し「まず与える」ことだったのである。「与えよ、さらば与えられん」～

国立市は2つの崖線によって国立駅付近と崖線を境目にして生活形態がかなり異なったものであったであろう。崖線から南部は農業を主にした生活形態であり、植生の面から特徴があるものと思われる。

コメント

天気の良い1日であった。気温も上がり、適度な散策日和であった。なまくらになっていく体を動かすにはよい日になったかと思われる。どう運営していくのか問われる活動であるが、地域の特性や土地のさまざまな条件を考えながら植生を見つめることは頭の体操になるかもしれない。



木村 須崎、樋口 羽深 岡 川杉 越前 中部 石川
撮影 小沢

	<p>シマトネリコ 沖縄県、中国、インドに分布 よく玄関先に植えられている。新しい街づくりや大学など、また、建売住宅などにも植えられていることが多い。</p>
	<p>コクサギ 林の中でよく見られる植物である。葉を付けている時は片側2枚、反対側に2枚という面白い付き方をする。</p>
	<p>ケヤキ 枝の先端部分の葉とその実である。この葉とともに種が飛んでいく遠くまで飛ばす知恵である。葉が茂るころは日当たりのいい方から緑を広げる。さわやかな光景を見せてくれる木である。 雌雄同株。たねが葉の付け根のところにある。春はこれが花である。</p>
	<p>ムクロジ 種が大きいので、どんぶらこっこ すっここ。と流れていく。流れ着いたところで繁殖する植物である。羽村の河川敷でも見られた。</p>
	<p>ツルマサキ 城山公園出口で見た。最初ツルとは見なかった。太い木がそのまま大木に見えた。よく見ると太い木に絡んだ蔓だとわかった。そこからだんだん分かってきた。スマホからツルマサキと判断した。10m近い高さまで伸びていた。</p>
	<p>ウメ 谷保天満宮で見た。古木の梅の木である。どれがどれだかわからない。比較の対象がないからである。梅の図鑑もない。頭に残っているものは常に判断できるものだけが頭にある。例えば鶯鶯などはわかる。 この撮り方は白梅と紅梅をうまく取り入れよい撮り方である。</p>

	<p>カンザキアヤメ</p> <p>谷保天満宮を出て谷保駅に向かう途中で見た。寒い時期に咲くあやめなんか見たことがない。どこからきて、こんなところに植えられたのか。</p>
<p>シラカシ、アラカシなど</p>	<p>崖線の植物について、気がついているだろうか。シラカシの木やアラカシの木が崖線を守っている。崖線は主に常緑樹によって守られる。</p>
	<p>ネコヤナギ</p> <p>寒さを守る殻が抜けたが、まだあの赤い葯はみられない。雌雄異株であり、この写真のものはどっちだろう。</p>
	<p>オオカワジシャ</p> <p>先に府中用水のところで書いた。 在来種のカワジシャとの違いは鋸歯のところである。こちらはおおざっぱな鋸歯であり、在来種は明瞭であるという。</p> <p>在来種は見えないので確かなものを見たい。</p>
	<p>アカシデ</p> <p>枝が赤くなるのでアカシデ。幹を見てもイヌシデと見分けがつかない。城山公園で見たものである。ちょうど今どき、枝先が赤く見えて美しい。雑木林の代表的な樹種である。</p> <p>アカシでは梅の公園にもある。青梅は赤シデが多い地域。</p>
	<p>国立市は散策路に立派な案内標識がある。田園地帯にもこのような案内板があり散策にも楽しい。崖線について説明したもの。</p>
	<p>写真の提供 木村、小沢、越前</p>
	<p>中部 記</p>
	<p>以上</p>